

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	具体的な数値目標等	具体的な取組	自己評価		結果の考察・分析および改善策等
				取組別	総合	
徳 育	<p>重点目標 自ら思いやる子ども の育成</p> <p>手段 1 相手意識を高め める。</p> <p>2 思いやりのあ る言動を増やす。</p> <p>3 いじめ、不登校 の解消率100 %を目指す。</p>	1について 相手を意識した挨拶 ができる子を増やす。 (80%)	1について (1) 相手意識についての実態把握 (2) 「笑顔のあいさつ宇宙一」の スローガンを目指した全校の取 組の充実 (3) 委員会活動等を生かした取組 の工夫	3	3	1について ○ 児童のアンケートによると「地域や友達に、先に元気の よくあいさつをしていますか。」の問いに対して82%が 肯定的な意見であり、保護者のアンケートでは、77%が 肯定的な意見であった。 ○ 職員のアンケートでは、「相手を意識した挨拶、返事、 発表ができていますか。」については肯定的な意見が54 %であった。 ◇ 挨拶は、ある程度はできている状況であるが、相手を意 識した発表等は、児童への称賛を交えながら、模範を示す 等の取組を今後も継続していく必要がある。
		2について 「さん」付けで呼ぶ 子を増やす。 (80%)	2について (1) 言葉遣い等についての実態把 握と日常指導の充実 (2) 道徳の時間、特別活動、こす もす科、帰りの会等を活用した 指導の充実	3		2について ○ 児童のアンケートによると「友達の名前を呼ぶとき、あ だ名や呼び捨てをせず、必ず『～さん』をつけていますか。」 の問いに対して73%が肯定的な意見であり、「ありがと うやごめんなさいがすぐに言えますか。」の問いに対して 83%が肯定的な意見であった。 ○ 職員のアンケートでも、肯定的な意見は、「～さん」を 付けることが75%、「ありがとうやごめんなさい」が6 8%であった。 ◇ 「～さん」付けについては、児童も職員もかなり習慣化 が図られつつある。今後も指導と称賛を継続していく。
		3について いじめ・不登校を解 消する。(100%)	3について (1) 未然防止のための日常におけ る観察と定期的な実態調査 (2) こすもす委員会、ケース会議 等を通じた組織的な取組の充実 (3) 関係機関と連携した取組の充 実	3		3について ○ 児童のアンケートによると「今の学年になって、嫌なこ とをされたり言われたりしたことがありますか。」の問い に対して60%が「そう思わない。」という意見であった。 ○ 職員のアンケートでは、「いじめ・不登校に対する対応」 については、92%が肯定的な意見であった。 ◇ 毎月実施の児童や職員のアンケートを踏まえ、いじめ・ 不登校対策委員会でも共通理解を図り、組織的に対応するよ うにしている。今後も常在意識をもち、早期発見・早期対 応の取組を組織的に進めていく。